



自彊日新

令和7年(2025年)4月号

加賀市立片山津中学校 学校通信

文責 勝木 一弘

【学校教育目標】

「自律・対話・挑戦の意志を持って主体的に生きる生徒の育成」

68名の新入生を迎え入学式

～式辞抜粋～

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心より歓迎します。

今日本は、安定成長の時代から変化創造の時代へと移行しました。この変化創造の時代の中で「充実した生活」を送るためには、「主体的な生き方」ができることが重要です。

「主体的に生きる」とは「他の人の幸せを守りながら、自分も楽しく生きる」ということです。これから皆さんには、主体性を身につけることを最上位目標として中学校生活を築いてほしいと思います。



さらに、主体性を身につけながら磨いて欲しい力が3つあります。

一つ目は、自分の考えを持ち行動する力です。(自律)

二つ目は、自分の言動をコントロールしながら対話する力です。(対話)

そして三つ目は、失敗してもあきらめず挑戦し続ける力です。(挑戦)

この三つの力を磨き、主体性を身につけ、この変化の時代に行動できる創造者と成るよう願っています。



次に、保護者の皆様に申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。本日より、片山津中学校の生徒としてお預かりいたします。加賀市の教育は、BE THE PLAYERの旗印のもと大転換をしました。「そろえる教育」から「のばす教育」へ進化しています。例えば、授業は、これまでの一斉授業から子どもたちに委ねる授業へと移行しています。本校も、大人が与える教育から子どもたちが主体的に行動する教育を目指しています。しかし、これらはここにいる誰もが経験していない挑戦です。失敗もあると思います。私たち教職員も決してあきらめず挑戦し続けていきます。どうかご協力下さい。不安なときはどうぞ学校を見に来て下さい。子どもたちを、令和の時代を、主体的に生き抜く人に、育てたいと思います。保護者の皆様のご理解をお願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さん、改めてもう一度、入学おめでとう。片山津中学校の校訓は、「自彊日新」です。「自分で考え努力し日々新しいことに挑戦する」という意味です。この校訓を実践し、令和の片山津中学校を一緒に創っていきましょう。

～歓迎の言葉～

桜の花が日に日に増え、うららかな春の陽気が続くころとなりました。

今日、本校に入学される新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私たち二・三年生は、皆さんのが入学されるのを心待ちにしていました。皆さんは今、中学校生活への期待と不安を抱えているかと思います。私も入学したときは、勉強のことや人間関係など不安でいっぱいでした。中学校に入ると、放課後に部活動があったり、小学校のときよりも人数が増えたり、小学校のときと比べ、いろいろなことが変わります。私は最初、新しい環境に慣れることが大変でしたが、部活動や行事などを通して、違う小学校の友達や、先輩方との関わりが増え、毎日の学校生活が楽しくなっていきました。



片山津中学校では、一年に大きな行事が二つあります。それが体育祭とスワトン祭です。体育祭では、赤団・青団に分かれて、様々な競技で競います。また、クラス対抗の競技だけでなく、応援タイムや綱引きなど、三学年で行うものもあるので、片中生みんなが一体となって楽しむことができます。スワトン祭では、合唱コンクールや、各委員会の催し物があります。合唱コンクールでは、本番に向けて、クラスで意見を出し合いながら練習をします。みんなが一つにまとまるのは大変だけど、自分たちで1つの音楽をつくり上げていく中で、クラスの仲が深まり、ステージの上でみんなの歌声がきれいに重なり合ったときの達成感や感動は忘れられないものになります。このような行事をこれから皆さんとつくりあげていくことがとても楽しみです。

また、皆さんは今日からの三年間で大人に大きく一步近づきます。そのために必要なのは、周りの人を大切にしながら、自ら考え、自ら行動していく「主体性」です。皆さんは今、不安な気持ちもあると思います。ですが、これから私たち二・三年生と、変化を楽しみながら、共に成長していきましょう。なにか困ったことがあれば、いつでも気軽に二・三年生に頼ってください。私たち三年生がしっかりと引っ張っていくので、みんなで一緒に、互いのよさを認め合い、共に高め合うことができる、あたたかい学校を築いていきましょう。

最後に、これから始まる新入生の皆さんの中学校生活が、充実したものとなることを願い、歓迎の言葉といたします。

離任式＆新任式〔3月28日（金）＆4月4日（金）〕

離任された先生	赴任先等
K 先生	
T 先生	
S 先生	
K 先生	
O 先生	
K 先生	
S 先生	
S 支援員	



お世話になつた八名の先生方が離任されました。

新任の先生	前勤務校等
M 先生	
J 先生	
N 先生	
H 先生	
T 先生	
M 先生	
K 先生	
I 支援員	

